

大学入試の手引き





大学入試の基礎知識

大学入試を大きく分けると、AO入試、推薦入試、大学入試センター試験、私立一般入試、国公立2次試験に分かれます。最も早く選考が実施されるのが、AO入試です。ついで11月に選考が行われる推薦入試と続きます。

	国公立大	私立大	短期大
Oct.	AO入試・推薦入試 (国公立でセンター試験を課す推薦入試の場合は2月に実施)		
Nov.			
Dec.			
Jan.	大学入試センター試験		
Feb.	前期日程	前期入試 / センター利用入試	
Mar.	中・後期日程	後期入試	

1月第3週土日に実施されます

前期日程は 2/25 前後
後期日程は 3/12 前後
に実施されます



近年、推薦入試やAO入試の受験機会増加および定員数増加に伴って、私立大学において推薦入試による入学者割合が約5割です。推薦入試で大学に入学するケースが増え、特に私立大学においては、公募推薦入試受験を視野にいたした学習が必要になってきます。一方で、国公立大学では推薦入試、AO入試の定員数が一般入試に比べて少なく設定されているためセンター試験受験+個別2次試験によって入学するのが一般的です。



大学入試一覧

入試	国私区分		内容
AO 入試	国公立大	公募制	正式名称は、「アドミッションズ・オフィス入試」。 志願者がレポートや小論文を提出したり、 面接が行われたりし、多面的に志願者の適正が判断される。 出願条件を設けている大学もある。
	私大		
推薦入試	国公立大	公募推薦	募集人員率は、定員の5%~15%程度。 出願するには、大学が定める推薦条件を 満たさなければならない。 特に、 <u>評定平均値</u> が大切で、4.0以上は必要である。
	私大	指定校推薦	大学から指定の高校に限定される。今までの進学実績に応じて 大学が高校へ募集をかける為、難関校の方が、 圧倒的に推薦数が多い。 推薦基準は非常に高く、 <u>評定平均値</u> が最重要条件となる。 関東私大難関（早稲田や上智などは指定校でも合格率は50% ほどだがそれ以外の地域では基本的に合格できる。）
		公募推薦	出願条件はいろいろあるが、それほど厳しい条件ではない。 基本的にどの生徒でも出願可能。 試験は1~2科目（文系は英・国《現代文+古典もしくは、 現代文のみ》理系は英・数）が一般的であるが、 面接や小論文を課す大学もある。 調査書（ <u>評定平均値</u> ）を点数化し、試験の点数と合算して 選抜を行う大学もある。
一般入試	国公立大	センター試験	国公立大学では、原則として、全大学でセンター試験を 1次試験として利用している。 5教科7科目型が基本であるが、地方公立などは科目数が 少ないところもある。
		2次試験	国公立大学毎に行われる試験。 試験日程は、前期・（公立中期）・後期がある。 ※京大など一部の大学では後期が無い場合もあるので注意。 前期日程試験に合格し入学手続きをした者は、 公立中期・後期試験を受験しても合格者となることはない。 公立高校入試と異なり、合格しても、必ず行く必要は無い。
	私大	一般選抜試験	文系は英語・国語・社会1科目、 理系は英語・数学・理科1科目が基本。 3科目型を軸に、得意科目に配点を大きくすることができる方式 （高得点重視方式などの方式名）など 大学毎に様々な方式がある。センターと組み合わせた方式もあるので、 募集要項のチェックが必要になる。
		センター利用	センター試験の結果をそのまま流用できる試験方式。 ほとんどの大学がセンター利用を実施している。 全て得点が判定に使用されるのでは無い。 判定科目は大学、学部学科毎によって異なる。 上位大学になるほど判定に必要な科目数が多い。



AO（アドミッションズ・オフィス）入試とは

書類審査や面接を重視した人物本位の選考による入試です。

出願条件を満たせば、誰でも出願が可能です。但し、出願条件に、一定の評定平均値が必要な学校もあります。自分をアピールできるものがあれば、その活動内容の成績自体は重要視されない傾向にあります。

⇒書類審査を含めて選考が長期間に渡る

1次選考に書類審査を設定している大学が多く、志望動機や自己PR文、課題論文等大学が指定した書類に、それぞれに約600字～2000字程の準備が必要となります。時期的に公募推薦対策期間と並行している為、計画的に準備していかなければなりません。

⇒AOにも専願・併願がある

専願と併願がありますので、AO入試を複数校出願する場合も可否発表日や次の選考日などが他の学校と一緒にではないかなど、細かくスケジュールを立てましょう。

⇒面接・面談が重視される

グループディスカッションや、プレゼンテーションや個人面接など、様々な選考方法があります。共通して言えることは、人物重視ということです。志願者が志望する学部学科のアドミッションポリシーに合致しているかうまくチェックされます。就職活動の選考と似ています。

(例)

書類審査 (自己推薦書・志望理由書など)
面接



課題レポート・小論文
体験授業・セミナー受講
プレゼンテーション・口述試験
実技試験(体力測定・芸術課題・プログラミング)

※国公立ではセンター試験が課される場合もあります

準備にかなりの労力と時間が掛かります。その為、

『出願するのは、辞めよう…』と諦めてしまう高校生達が多いのも事実です。高校によっては、秋に文化祭が実施されるところもある為、学校行事の準備、AO入試の準備、そして公募推薦入試に向けた準備と、たくさんのお仕事を、同時に進めていく必要があります。大変なことはありませんが、志望校へアプローチするチャンスは多ければ多い程良いです。頑張ってチャレンジし、憧れの大学に入学できるチャンスをひとつでも多く増やしましょう。





推薦入試とは

高校から推薦された生徒を、調査書や面接などにより総合的に判断する
選抜入試のこと。推薦入試は大きく指定校制推薦入試、公募制推薦入試に
わかれ、大学によって様々な選抜方法がなされています。

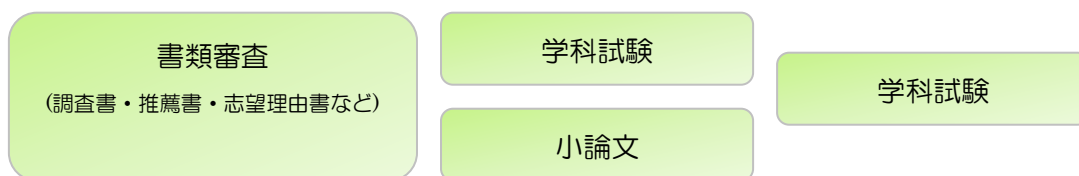
補足 特別推薦について

指定校制推薦入試、公募制推薦入試以外にも様々な推薦入試が用意されるようになってきています。

- ・スポーツ推薦入試
- ・一芸一能推薦入試
- ・専門課程推薦入試
- ・帰国生推薦入試
- ・有資格者推薦入試

▶ 推薦入試の選抜方法は？

推薦入試の選抜方法は大学によって様々ですが、基本的には次のいずれかにあたります。
書類審査で最も重要となるのは調査書です。
調査書は「全体の評定平均値」「出欠記録」「特別活動の記録」で構成され、各大学は調査書を
それぞれの手法で点数化し、評価しています。



算出した「全体の評定平均値」をA～Eの5段階に当てはめたものです。
推薦入試の出願条件を評定平均値ではなく学習成績概評で指定する大学もあります。

学習成績概評	A	B	C	D	E
全体の評定平均値	5.0～4.3	4.2～3.5	3.4～2.7	2.6～1.9	1.8 以下



体の評定平均値とは

高1～高3の1学期(前期)までの教科・科目の成績
(5段階)を合計し、科目数で割って計算した数値のことです。私立大学の公募推薦入試においては、これらを
加点する入試方式が一般的ですが、点数化しない入試方式を用意している大学もあります。その為『評定平均値
が低いから、公募推薦入試は諦めよう…』と考えず、まず自分の志望する大学の推薦入試の要項を確認し、受験
可能かを検討しましょう。あなたの苦手な科目、(例えば数学)と得意な科目、(例えば選択音楽)は、均等に割ら
れるため、同じ価値があるのです。



国公立大と私大との違いは

⇨国公立大学の場合

募集形態	受験資格	合否判定の方法
公募制推薦入試	出願条件を満たしていれば どの高校の生徒でも出願が可能。	① 書類審査 (推薦書・調査書など) ② 小論文 (総合問題含む) ③ 面接 ④ センター試験 (課さない場合もある) などによって総合的に判定されます。

注意点

国公立大学所在地の都道府県内在住者やその都道府県の高校に通う学生であることや
大学卒業後もその地域に勤務することを条件とする場合があります。

国公立大の推薦入試は1大学しか出願できません。

募集定員が少なく、定員の5～10%ほど。

全体評定平均値が4.0以上を要求される場合が多くなります。

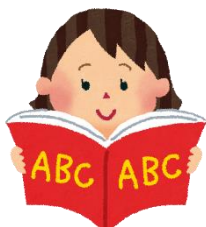
⇨私大の場合

募集形態	受験資格	合否判定の方法
公募制推薦入試	出願条件を満たしていれば どの高校のどの生徒でも出願が可能。	① 書類審査 (推薦書・調査書など) ② 小論文 (実技含む) ③ 面接 (グループ討議含む) ④ 学科試験 などによって総合的に判定されます。
指定校制推薦入試	大学が学校に割り当てた推薦枠を得て、学校から推薦してもらう方法。推薦を得るために、学校内で選抜されることが多い。	① 書類審査 (推薦書・調査書など) ② 面接 (グループ討議含む) などによって判定されます。

注意点

指定校推薦は**専願受験**となります。

学校によって状況が異なるので、必ず学校の先生に希望の大学の推薦枠があるか確認して下さい。



いちばん多い公募推薦入試の判定方法は

“2科目で判定される学科試験”です。文系であれば、国語（古文が出題されるかチェック）と英語。理系であれば数学（出題範囲が限定されることが多い）と英語。中には1科目で受験可能な大学もあります。



平成 31 年度センター試験

教科	出題科目	試験時間	配点
国語	「国語」 …近代以降の文章（100点） 古文（50点） 漢文（50点）	80分	200点
地理歴史	「世界史A」 「世界史B」 「日本史A」 「日本史B」 「地理A」 「地理B」	1科目選択の者 60分	1科目選択の者 各100点
公民	「現代社会」 「倫理」 「政治・経済」 「倫理、政治・経済」	2科目選択の者 130分 (うち解答時間120分)	2科目選択の者 <u>合計200点</u>
外国語	「英語」 「ドイツ語」 「フランス語」 「中国語」 「韓国語」	<u>筆記</u> 80分 <u>英リスニング</u> 60分 (うち解答時間30分)	<u>筆記</u> 200点 <u>英リスニング</u> 50点
教科	出題科目	試験時間	配点
数学	①「数学Ⅰ」 「数学Ⅰ・数学A」	60分	100点
	②「数学Ⅱ」 「数学Ⅱ・B」 「簿記・会計」 「情報関係基礎」	60分	100点
理科	①「物理基礎」 「化学基礎」 「生物基礎」 「地学基礎」	2科目選択 <u>合計60分</u>	2科目選択 <u>合計100点</u>
	②「物理」 「化学」 「生物」 「地学」	1科目選択の者 60分 2科目選択の者 130分 (うち解答時間120分)	1科目選択の者 100点 2科目選択の者 200点 (うち解答時間120分)

▶ 平成 31 年度（2019 年度）センター試験について

平成 27 年度入試より、数学・理科、そして平成 28 年度入試より、英語・国語が
新学習指導要領に対応した出題範囲となりました。

国語



「国語総合」の内容を出題範囲とし

近代以降の文章、古典（古文、漢文）を出題する。

地歴公民



10 科目から最大 2 科目を選択し、解答する。

ただし、同一名称を含む科目の組合せで 2 科目を選択することはできない。

各科目ともすべてを出題範囲とする。「倫理、政治・経済」は「倫理」と「政治・経済」を総合した出題範囲とする。地理歴史及び公民の「科目選択の方法等」欄中の「同一名称を含む科目の組合せ」とは、「世界史 A」と「世界史 B」、「日本史 A」と「日本史 B」、「地理 A」と「地理 B」、「倫理」と『倫理、政治・経済』及び「政治・経済」と『倫理、政治・経済』の組合せをいう。

外国語



5 科目から 1 科目を選択し、解答する。

「英語」は「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」及び

「英語表現Ⅰ」を出題範囲とする。

「英語」を選択する者は、原則、筆記とリスニングの双方を解答する。

リスニングは 30 分間で解答を行うが、解答時間前に IC プレーヤーの作動確認等を行う時間を加え 60 分とする。

数学



数学①

「数学 A」は「場合の数と確率」「整数の性質」「図形の性質」の 3 項目のうち

2 項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。

数学②

「数学 B」は「数列」「ベクトル」「確率分布と統計的な推測」の 3 項目のうち

2 項目以上を学習した者に対応した出題とし、問題を選択解答させる。

理科



「物理」「化学」「生物」「地学」は一部に選択問題を配置する。

8 科目のうちから下記のいずれかの選択方法により科目を選択し、解答する。

A：理科① から 2 科目

B：理科② から 1 科目

C：理科① から 2 科目及び 理科②から 1 科目

D：理科② から 2 科目

理科①を 1 科目だけ受験することはできない。

受験料

3 教科以上受験 ￥18,000 / 2 教科以下受験 ￥12,000

成績通知手数料

出願時 ￥800 円（成績通知を希望する場合）

▶ センター試験の基本事項

オールマークセンス方式……1.3mmのマーク用シャーペンか、少し丸くした鉛筆を準備しておきましょう。かなり塗りやすくなるはずです。“マークミス”に注意。試験終了後に解答がずれていたということがおこらない様に注意しましょう！

自己採点が必要……多くの場合、自己採点結果から出願する大学を決定します(自己採点から合格可能性を判定してくれるサイトなどを利用します)。模試などでも問題用紙に解答を必ず転記する習慣をつけておきましょう

学習指導要領に沿った出題…出題範囲の実に80%が高2までの履修内容になります。平均点は60点ぐらいになるように作成されています。センター試験受験を考えている場合はまず基礎力をしっかりつけることから始めましょう。

出願時期が早い……センター試験を実際に受験するのは、1月になりますが、出願をするのは10月となります。みなさんは、高校を通じて申し込むので、実際学校が設けている出願め切は、もっと前の場合がほとんどです。大学入試におけるスケジュールは学校の年間予定と同時進行で行わなければなりません。しっかりと計画管理をしていきましょう。



国公立大学個別試験(2次試験)

センター試験終了後行われる、国公立大学の個別試験のことです。原則として募集人員を2つに割り、前期日程と後期日程の2回に分けて行われます。必要な教科などは学校によって異なりますが、一般的に前期日程は2～3教科、後期日程は特殊科目試験が課せられます。尚、前期日程で約80%の定員を占めます。国公立大を受験する場合は、第一志望の大学を前期日程で受験することが原則です。



▶ 前期と後期の違いは？ 一般的には前期日程は後期日程に比べ、募集定員が多い。

日程	定員	一般的な試験の内容
前期 日程	多い (全体の80%)	外国語・数学など2～3教科。 学科試験(記述式が多い)
後期 日程	少ない (全体の20%)	小論・面接・総合問題などが課せられます。 特殊科目試験

注意点

入試科目・配点比率を事前に確認を！

センター試験・個別試験ともに各大学で必要となる入試科目・配点は異なるので、受験校を決める際に必ず確認しておくことが必要となります。センター試験の点数が思うように取れずに、地方国公立に視野を広げて志望を広げることはよくあることです。

入試日程に注意！

どの大学も、前期入試と後期入試が実施される訳ではありません。

東大や京大（一部後期実施）のように、前期のみしか実施されない大学もあります。

中には、中期のみしか実施されない大学もあります。

各大学の募集要項をよく確認しましょう。



私立大一般入試

センター試験終了後行われる、各私立大学の個別試験のことです。

私立大学を志望している場合は、11～12月に行われる推薦入試の結果を見て、受験校を決めるといったケースも多く見受けられます。私大の入試は1月末から実施される「前期試験」、3月から実施される「後期試験」に大きく分けられます。国公立大学個別試験とは異なり、「前期試験」の結果をみて、「後期試験」の出願をすることが可能です。

▶ 私立大一般入試のさまざまな制度

選抜方法	詳細
前期 試験 入試時期 1 月末～2 月	基本的な入試科目 文系…「外国語」「国語」「地歴・公民 or 数学」 理系…「外国語」「数学」「理科」 また、2教科もしくは1教科入試など少数科目入試を行う大学が増加しています。
後期 試験 入試時期 3 月	前期試験の合格発表後（2月下旬～）行われる試験。 科目数が少なくなる大学が多い。 後期試験は難しくなると考えがちですが、統計的にみて本試験と難易度は変わらないのでチャレンジする価値はあります。 また、教科数を減らす大学が多いのも特徴的です。
センター試験利用入試	大まかに2種類に分かれます センター試験の得点のみで合否を判定 センター試験＋個別試験の総合点で合否を判定 また、センター試験前に出願する入試方式と、センター試験後に出願する入試方式があります。



受験勉強は一般入試で必要な科目
に合わせる必要があるな！